

長崎北病院 伝言板 2月号

令和7年2月1日発行

もう2月。正月だ、寒い、雪だなどと言っているうちにもう2月。今年2月3日が立春。春の始まり。立春の前日の2月2日が節分です。立春と言いながら、例年この時期が一番寒い気がします。しかし、もう「鼻センサー」や「目玉検知器」が花粉を感知し始めている方もいるようです。杉の木はすでにオレンジ色。日も長くなってきました。気づかないうちに春はすぐそこに。



無くしたくないもの

日本は安全安心な国だと思っていました。ところが、昨今は列に並んでいると刺される、家の中にも闇バイト強盗が侵入してくる。周りに注意して緊張して歩かねばならない。埼玉では道に大穴が開いてトラックが転落。足元もよく見て歩かないと危険。キャベツ1000円、米も高騰。ガソリン200円。なんでも値上げ。生活は苦しくなる一方。人手不足や人件費高騰、コスト増加などで医療や福祉の現場も倒産や閉鎖が増えている。日本では水や空気、安全安心は特別な努力やコストをかけなくても当たり前存在するもの。米はお店に行けばいつでも買える。医療や福祉は誰でもどこでも平等に利用できるもの。そう思われてきました。当然あるはずのものがない不安。安全安心衣食住、医療介護。当たり前存在する国であって欲しい。手放したくないものです。続ける意思、努力が必要です。



もう一つ無くなりかけているもの。倫理観、規範意識。先日から世の中を騒がせている「フジテレビ」。詳細はよくわかりません。事の発端はタレントの女性トラブルを週刊誌が報じたことのように

おそらく表に出たのは氷山の一角なのでしょう。もっと表に出ている問題があることは想像できます。しかし、現在問題となっているのは女性トラブルよりもフジテレビの対応、コンプライアンス意識欠如です。コンプライアンスは日本語では「法令遵守」と訳されます。しかし、法律を守る、法に違反していなければ良いというわけではありません。企業や組織でのコンプライアンスとは、法令の遵守だけではなく、倫理観や公序良俗などの社会的規範、公正・公平な業務遂行を意味します。フジテレビは法律違反はしていないかもしれませんが、問題を把握しても隠蔽、さらに女性アナウンサーなどを利用しての営業、接待などセクハラ、パワハラに該当する社会的規範、公序良俗、公正・公平などの疑惑が山盛り。それが当たり前の企業風土の中で、これはおかしい、間違っているという感性が無くなっていた。さらに、それに気づいたとしても言えない、正せない。言ったとしても握りつぶされ、不利益を被る企業内統治や上司、幹部が蔓延していたのが問題の根幹のようです。社長、会長の「しわ首」2つを差し出して一件落着としたいのですが、世の中の目は厳しい、そうあって欲しいと思います。



病院で起こりやすいコンプライアンス違反としては個人情報漏洩、事故隠蔽、パワハラ、セクハラ、労働基準法違反、診断書・カルテ虚偽記載などがあります。コンプライアンス違反の原因としては知識、規範意識不足、閉鎖的企業風土、社内の教育、体制の不備、トップ・幹部の意識の低さや欠如などがあります。一度問題が起こるとフジテレビではありませんが、積み重ねてきた企業の実績、信頼も一気に失い、場合によっては企業がなくなることもあります。まずは自分の行動が倫理、行動規範から外れていないか、他人に迷惑をかけていないか、正しい事か考える、気付いたら声を上げることから始まります。倫理観、規範意識。無くしたくない。ちゃんとした国、組織でありたいものです(PS:私の後頭部の寝癖のように自分では気づかないものなのよ)(A.S.)

